



日本銀行金融研究所
Institute for Monetary and Economic Studies,
Bank of Japan

金研ニュースレター

2016年4月

金融研究所 (Institute for Monetary and Economic Studies, IMES) は、1982年10月に日本銀行創立100周年を記念して、日本銀行の内部組織の1つとして設立されました。金融研究所は、金融経済の理論、制度、歴史に関する研究を行っているほか、金融経済に関する歴史的資料の収集・保存・公開を行っています。

ハイライト

1. 金融研究所主催・ファイナンスワークショップ
2. 第17回情報セキュリティ・シンポジウム

「金研ニュースレター」は、日本銀行金融研究所が主催したイベントを、幅広い読者を対象に、タイムリーにお知らせすることを目的としています。

1. 金融研究所主催・ファイナンスワークショップ

日本銀行金融研究所では、3月4日に、「国債市場の流動性とシステミックリスク」と題するファイナンスワークショップ(研究会)を日本銀行本店において開催しました。

国債市場の流動性に関連するキーノートスピーチのほか、3本の研究論文が報告されました。

ファイナンスを専門とする研究者・実務家を中心に本行関係者も含めて80人程度の参加がありました。



開会挨拶を行う渡邊賢一郎所長 (日本銀行)

※ 各参加者の肩書き・所属は、本ワークショップ開催時点のものです(以下同じ)。



ワークショップ参加者

早稲田大学の宇野淳教授によるキーノートスピーチでは、国債市場の流動性に関する最近の研究の潮流についてお話を頂きました。2009年以降の欧州危機において国債市場の流動性がどのような状況にあったか、また、中央銀行がどのような対応を行ったか等について説明があり、参加者の間で改めてこの分野の重要性が共有されました。



キーノートスピーチを行う宇野淳教授（早稲田大学）

研究報告のセッションでは、金融研究所のスタッフによる研究報告2本と神戸大学の岩壺健太郎教授による研究報告が行われました。報告論文に共通した特徴として、近年注目を集めている「ビッグデータ」の活用が挙げられます。日中取引のデータをフル活用し、様々な指標が分析されました。指標の中には比較的新しく考案されたものも含まれており、参加者からは数多くの意見が寄せられ議論が白熱しました。

当日の発表論文は、金融研究所のディスカッションペーパーとして以下のサイトに公表される予定です。

<http://www.boj.or.jp/en/research/imes/dps/index.htm/>



「国債市場の流動性とそのリスクの把握」と題して報告を行う土田直司氏（日本銀行、写真左）と指定討論を行う太田亘教授（大阪大学、同右）



「国債市場のネットワーク分析とシステミックリスクへの応用」と題して報告を行う崎山登志之氏（日本銀行、写真左）と指定討論を行う小林照義准教授（神戸大学、同右）



「国債市場の流動性と金融緩和オペレーション」と題して報告を行う岩壺健太郎教授（神戸大学、写真左）と指定討論を行う大橋和彦教授（一橋大学、同右）

2. 第 17 回情報セキュリティ・シンポジウム

日本銀行金融研究所情報技術研究センター(CITECS)は、3月2日に、日本銀行本店において、「金融取引を安心安全に実現するための認証技術:FinTech 時代も意識して」と題する第 17 回情報セキュリティ・シンポジウムを開催しました。



シンポジウム参加者

今回のシンポジウムでは、金融分野に関係する情報セキュリティ技術について、金融研究所スタッフや外部研究者による研究発表のほか、有識者によるパネル討論が行われました。

シンポジウムには、情報セキュリティ技術に関わる金融機関の実務者や官公庁関係者のほか、暗号学者、システム開発・運用に携わる技術者等、約 160 名が参加しました。



開会挨拶を行う鎌田康一郎 情報技術研究センター長(日本銀行、写真左)と司会進行を務める宇根正志氏(日本銀行、同右)

※ 各参加者の肩書き・所属は、本シンポジウム開催時点のものです(以下同じ)。

基調講演において、松本勉教授(横浜国立大学大学院)は、金融分野における環境変化を踏まえながら、シンポジウムのテーマとして認証技術を取り上げた理由や問題意識等について講演しました。



基調講演を行う松本勉教授(横浜国立大学大学院)

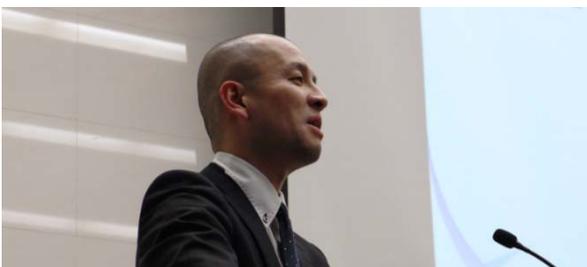
基調講演の後、認証に関する4件の講演が行われました。



「次世代認証技術を金融機関等が導入する際の留意点」と題して発表する井澤秀益氏（日本銀行）



「生体認証システムのセキュリティ評価」と題して発表する宇根正志氏（日本銀行）



「暗号ハードウェア等に対するセキュリティ評価および留意点」と題して発表する清藤武暢氏（日本銀行）

パネル討論では、「インターネット・バンキングのさらなる発展に向けて」をテーマとして、3名のパネリストによる議論が行われ、最新の研究や実務の動向も踏まえ様々な観点からの意見が示されました。



モデレータとパネリスト（左から順に）：松本勉教授（横浜国立大学大学院）、鎌田敬介氏（金融ISAC 理事/FS-ISAC Regional Director）、松本泰氏（セコム株式会社 IS 研究所 マネージャー）、高木浩光氏（産業技術総合研究所 研究戦略部連携主幹）

シンポジウム当日の資料等については、金融研究所ホームページの以下のサイトに掲載しておりますのでご参照ください。

<http://www.imes.boj.or.jp/citecs/symp/17/>

金研ニュースレター 2016年4月

※本誌に関する照会は、日本銀行金融研究所までお寄せください。

無断での転載・複製はご遠慮ください。

日本銀行金融研究所 (IMES)

〒103-8660 東京都中央区日本橋本石町 2-1-1

TEL: 03-3279-1111 (大代表)

FAX: 03-3510-1265

E-mail: imesjournals-info@boj.or.jp

ホームページ: <http://www.imes.boj.or.jp/index.html>